

ユーザーレポート

User Report

— 0の証明 —

個人

アルコール依存症からの回復記録。 アルコール・インターロックが社会復帰を強力にサポート。

アルコール・インターロック装置を個人のクルマに装着されたご家族にお話を伺いました。装着を依頼されたのは、夫（44歳）の飲酒運転に悩む奥様です。同じように、家族や身近な人の飲酒問題に悩みを持つ方の参考になればと、導入に至るまでの経緯と葛藤を赤裸々に語っていただきました。

アルコール依存症は誰にでも起こり得る身近な病です。本事例は、アルコール依存症の進行過程と回復への道のりを示す貴重な証言となっています。同様の問題に直面している方々の希望となることを切に願い、詳細をお伝えいたします。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



アルコール依存の経緯と症状

夫は公立学校の教員として約10年のキャリアを持ちます。県庁勤務3年の経験もある真面目で優しい人柄です。元々お酒が好きで、酔うことがたまたまなく気持ち良いとのことでした。そのため飲酒は帰宅後の習慣となっていて、毎日発泡酒（500ml）や7%のチューハイを2〜3缶飲んでいましたが、1年ほど前からアルコール度数の高いものを好むようになり、最終的には25度の焼酎（200ml）を1日2本以上飲むようになりました。そうして徐々に記憶が曖昧になる状態が頻発するようになったのです。

様子がおかしいと感じるようになってきた私は「お酒をやめてほしい」と訴えました。しかし言い争いになるばかりで夫がお酒をやめることはありませんでした。むしろ悪化していったといえます。これまでは家飲みで済んでいたところが、仕事帰りにコンビニに寄ってお酒を購入し、そのまま車中で飲んで飲酒運転で帰ってくるようになったのです。私は、いつ夫が事故を起こすかと毎日が恐ろしくたまりませんでした。そんな不安を抱える中で、実は夫自身も“自分の飲み方はおかしい。なんとかしなければ”という思いを持っていることを知りました。夫は仕事のストレスからお酒が手放せなくなっていたのです。私は夫の状況を理解するために、アルコール依存症について調べることにしました。



※写真はイメージです

危機的状況

そんなある日、とうとう飲酒問題が大ごとになって露呈する日がやってきました。2024年4月のことです。夫は赴任先の新しい学校で歓迎会に参加し、お酒を大量に飲んでそのまま行方不明になってしまったのです。「外では飲まないようにしてね」と何度も伝えていたものの、乾杯の一口で歯止めがきかなくなってしまったのでしょうか。

2日間連絡が取れず、ようやく電話がつながった時は駅にいるとのこと。急いで駆け付けると、夫はお酒を抱えて駅のホームに座っていました。私はまず“生きていてくれて本当に良かった!”と心の底から安堵の気持ちがこみ上げてきました。夫は連絡が取れない間、お酒を飲みながら彷徨い続けていたそうですが、その時のことは全く記憶がないのだそうです。また、行方不明騒動と同時に職場のロッカーからアルコール類が発見されました。私はその事実を校長からの電話で知りました。飲酒運転に行方不明、そして職場での飲酒。事態は深刻であり、治療が急を要することをはっきりと認識しました。



専門医療機関での治療へ

大量飲酒は体にも大きな負担をかけています。健康診断では大腸癌や緑内障の診断で警告を受けているにも関わらず、飲酒をやめることができない夫をどうしたらよいのか途方に暮れていた矢先でもありました。どこに、なにを相談してよいのかわからない状況に手を差し伸べてくれたのが校長でした。アルコール依存症と治療法、またアルコール・インターロックについても調べてくださり、現在の治療に続く道筋となりました。

飲酒問題が表面化したその月に夫は休職し、依存症治療を開始しました。2024年4月から5月末までの約2ヶ月間、専門病院に入院し、現在は2週間に1回の頻度で通院治療をしています。病院では個別診療に加え、本人を交えた家族向けの勉強会も実施しているので私も参加しています。また治療のベースとなる精神科の薬物療法と並行して、断酒プログラムも取り入れています。

ユーザーレポート

— 0の証明 —

User Report

個人

回復のプロセスを進めるようになったのは、校長の支えがあったからこそです。職場での飲酒が発覚した際に私たちを見捨てることなく、的確な指導と支援の手を差し伸べてくれたことが大きいです。飲酒問題は身内の恥と捉えて、職場や周りの人に知られたくない人の気持ちもよくわかります。けれど勇気を持って、周りに困っていることを伝えて、助けを求めることも解決へ向けて必要なことだと実感しています。



アルコール・インターロックの導入と効果

お酒を飲んだらエンジンがかからない装置「アルコール・インターロック」について校長からご提案をいただいて、すぐに夫と話し合いの場を設けました。車両整備関連に勤める親族の協力を得られたことも幸いし、夫はすんなり設置を受け入れました。そこから導入までは非常にスムーズで、まずは機器について詳細を聞くために東海電子に連絡をしたところ、とても丁寧にこちらの状況をヒアリングしてくれました。夫の場合は、自分でも現状をなんとかしたいという気持ちがあったので滞りなく進みましたが、例えば家族がインターロックを取り付けたくても、運転する本人が嫌がるケースなどがあるため、東海電子では個々の状況に沿った提案ができるように親身に相談にのってくれるのだそうです。

設置してから約4ヶ月が経過した今、夫は断酒を続けていますが、毎朝と帰宅時の2回、アルコールチェックを欠かしません。当初は操作に戸惑う部分があったものの、すぐに測定の一連の流れが定着しました。日常的な安全確認ツールとなったことで子供のお迎えも安心して任せられることができます。そのため、夫と子どもとの関係も前向きな変化が見られ、家庭の明るさを取り戻すことができました。インターロックは飲酒運転の不安を払拭し、家族の安心を築く機器だと思っています。

東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
<https://alcohol-interlock.com/>

アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com
～飲酒運転加害者をゼロに～



今後の展望

夫は現在教職を離れて、新たな職場環境に向けての適応を進めています。将来的な目標設定や生活設計について家族で話し合いながら社会復帰を目指しています。私はより夫をサポートできるように、治療プロセス全般に積極的に関わっていきたくと思っています。まだ手のかかる子どもがいる今でもそれができているのは、夫の両親や私の親族の協力と理解があるからです。今後も医療機関や支援して下さる方との連携を大切にしながら一歩ずつ回復への道を進んでいきます。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、アルコール・インターロックを導入されたご一家



東海電子公式YouTube 【導入事例】
あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり【ALC-ZEROII】
<https://www.youtube.com/watch?v=CcXm5jBgeTQ>

編集後記

今回の取材を通じて、アルコール依存症の治療において、医療機関、職場、家族の三位一体の支援体制が不可欠であることを痛感しました。専門病院での治療はもとより、職場の理解、家族のサポートが回復過程で外せない役割を果たします。また飲酒問題を抱えている人を孤立させず、社会復帰につなげるツールとしてインターロックは強力なサポートとなる中で、機器の認知度が低いことが課題であり、より広い周知が必要です。アルコール・インターロックは飲酒運転をさせません。私たち東海電子は引き続きインターロックの社会実装を推進し、個々のお悩みにも寄り添ってまいります。

導入事例動画

【あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり】
<https://www.youtube.com/watch?v=CcXm5jBgeTQ>

飲酒したら、エンジンがかからない。



アルコール・インターロック

ALC-ZEROII

導入事例